

2023年6月30日

学校法人三幸学園
大宮医療秘書専門学校
校長 増田 泰朗 殿

学校関係者評価委員会
委員長 千葉 真一

学校関係者評価委員会実施報告

2022年度学校関係者評価について、下記のとおり評価結果を報告します。

記

1 学校関係者評価委員

- ① 千葉 真一（ヒューマンリソシア株式会社、株式会社日本教育クリエイト）
- ② 鈴木 音々（第12期卒業生）
- ③ 島田 貴司（飛鳥未来きずな高等学校 キャンパス長）

2 学校関係者評価委員会の開催状況

2023年6月30日（会場 大宮医療秘書専門学校 403教室）

3 学校関係者委員会報告

以下「自己評価・学校関係者評価報告書」に学校関係者評価委員会コメントとして記載

以上

2022年度 学校法人 三幸学園 大宮医療秘書専門学校 自己評価及び学校関係者評価報告書

自己評価報告責任者：副校長 関根利恵子

学校関係者評価報告責任者：関根利恵子/学校関係者評価委員会委員長 千葉真一

1. 学校の教育目標

学園のビジョン「人を活かし、日本をそして世界を明るく元気にする」、ミッション「人を活かし、困難を希望に変える」のもと、医療分野の学校として「医療現場で医療事務・診療情報管理士を通じて日本を明るく元気にする」というビジョンを掲げている。

また「技能と心の調和」を教育理念とし「素直な心、感謝の気持ち、高い意欲を持ち続け、自ら考え、自ら行動することで、社会に貢献する人材」、医療分野として「相手のこうしてほしいを理解し、考え続ける人材」を育成する人物像とし、専門学校として社会・業界に求められる人材の育成を進めている。

2. 前年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

① 前年度重点施策振り返り

退学率低減に向けた取り組み・就職後の離職率低減に向けた取り組み・コロナ前の行事と同様の教育効果が見込まれるような行事の提供に注力した。通常授業日を週5日間から4日間へ変更する取り組みを行い、退学率については目標 4.6%に対して、2.7%と大幅に低減できた。行事についても、コロナ前に実施した形に少しでも近づけるよう、広い会場で姉妹校と合同の体育祭を開催できた。実施後のアンケート結果で、生徒満足度が過去最高を記録できたことは成功したと言える。

② 学校関係者評価委員会コメント

・1年次は週5日、2年次が週4日の通学だったが、通学日数が1日減った分、アルバイトや身体を休める時間に充てることができ、非常に過ごしやすかった。(鈴木委員)

・卒業後に就職して週5日勤務をしているが特に問題なかった。また、卒業後にも連絡を取っている友人も、通常の勤務日数で問題なく働いている。人間関係のトラブルで退職した友人はいたが勤務時間が合わず辞めた友人はいない。(鈴木委員)

・週4日の通学でも、アルバイトするなど家にいない時間は変わらない為、勤務については問題ないと思う。どちらかというと勉強ができる時間が確保できるため良いと思う。(千葉委員)

・確かに週に1日学校がないからと言って自宅待機をしている生徒は少ないと感じる。アルバイトに時間を費やしている生徒も多くおり、社会勉強ができる絶好の機会になっている可能性が高い。(関根副校長)

・週4日通学は専門学校の分野によってはできる気はする。以前勤務していた学校では、3年制課程の学科は週1日の実習日を設定し授業ではなく、現場に出られる日を作っていた。(島田委員)

・コロナ明けにはなってきているので週1日、ボランティア日を作ってもよいのでは？(千葉委員)

・院内のイベントも復活してきており、ボランティアの受入れ等、イベントのお手伝いでも募集がかかると思う。(千葉委員)

・産学連携を図り、今後は更に積極的に医療機関へのボランティア活動を生徒に案内していきたい。(関根副校長)

3.評価項目の達成及び取組状況

(1)教育理念・目標

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の理念・目的・育成人材像は定められているか（専門分野の特性が明確になっているか）	4
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4
学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか	3
各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4

① 課題

・理念や目的、目指すべき職業人像は設定できており、入学後の研修で生徒に伝えられている。ただ、その後繰り返し伝え続けているか、保護者にも「浸透」するまで伝えているかという点には課題が残る。今年度は保護者オリエンテーションをオンデマンドで実施したものの、全保護者が閲覧しているわけではなかった。

② 今後の改善方策

- ・生徒へも繰り返し目標確認をする際に、学校理念・教育の目的・目指すべき姿を伝えていく。
- ・教科担当とも連携できるよう、全教員が集まる会議でも伝え続ける。
- ・オンデマンド保護者説明会の閲覧数が増えるような施策を実施する。

③ 特記事項

・特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・教育理念は入学時に提示はされたものの、在学中には聞かれても答えられなかったかもしれない。（鈴木委員）
- ・教育理念を明確に把握したうえで授業を行っていたかと聞かれると、完璧ではなかったと感じる。（千葉委員）
- ・高校では教員に対しては全体会議・Teams 等で発信はしているものの、浸透しているかは図っていない。生徒に対して教育理念を明確には提示していないため言葉としては知らないかも知れない。保護者への浸透は、対面での保護者会を5月に実施し伝えている（参加率50%程度）。不参加の方にはオンデマンドで配信しているものの閲覧数までは把握しきれていない。（島田委員）
- ・本校もオンデマンドで実施したが、閲覧回数が思いのほか伸びなかったため、実施方法に検討の余地がある。（関根副校長）

(2)学校運営

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
事業計画に沿った運営方針が策定されているか	4
運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4
人事、給与に関する制度は整備されているか	4
教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	3
教育活動に関する情報公開が適切になされているか	4
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4

① 課題

・業界や地域社会に対するコンプライアンス体制については課題が残る。コロナが明けてきてはいるものの、業界や地域社会のニーズを汲み取るためにも、委員からの意見を募りたい。

② 今後の改善方策

・コロナ5類移行に伴い、実習や産学連携の取り組みで業界との連携を強化することに注力したい。

③ 特記事項

・特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

・1年次は埼玉県、2年次は地元の福島県の病院で実習に参加させていただいた。医療機関の現場を少しでも経験してから就職をしたと思ったので希望して参加をした。（鈴木委員）

・コロナ禍であったため実習参加を任意にしたが、初めての環境に1人で行くことがネックになっており、参加の有無が選べるのであれば参加したくないと思う生徒が多かった。（関根副校長）

・医療事務系の学科を持っている大学は実習を行っていない為、実習については専門学校の強みである。（千葉委員）

・資格に紐づいていない学科では実習を任意としているが、それでも1年次は7～8割の生徒が参加していた。また、勤務していた別の学校では、キャリア教育の一環で実習を行っていたものの、任意にしてからは選択肢ができたことで行きたくないという生徒が出てきたように思う。（島田委員）

・当学園の医療事務系の学校については、原則、実習を必須に近い位置づけとして参加してもらうこととしている。そのため、実習で何が身につくのかなどの動機づけを十分に行う必要がある。（関根副校長）

・実習に参加させていただいたことで、技術面より接遇が学べたと思う。患者様に対する接し方・職員の方に対する接し方が学べたのは、とても勉強になった。（鈴木委員）

(3)教育活動

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4
目標の設定として、教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4
関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4
関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか	4
授業評価の実施・評価体制はあるか	4
職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	3
成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	4
資格(免許)取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保し、組織できているか	4
関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含め)の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	4
関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4
職員の能力開発のための研修等が行われているか	4

① 課題

・教科単体での教育に留まっていることが多く、教科間連携・担任と教科担当との連携をより強めていきたい。
 ・カリキュラム内に業界との連携を図る教科があり、実習の他にも医療機関の方にもお越しいただいているが、継続的な教育の提供という点で更に関りを持てる環境づくりを行う必要がある。

② 今後の改善方策

・昨年度、教科間連携の一環で教科会を実施したため、より教員間のコミュニケーションが図れるようにクラス状況を常に共有できるシートを基に直接コミュニケーションをとることで、教員全体で生徒の学習支援をしていく。
 ・授業の一環として、定期的に医療機関の方から生徒への指導機会をいただける提携を検討していく。

③ 特記事項

・特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

・在学中に教員毎に言っていることが違うという違和感はなかった。(鈴木委員)

・担任メンバーを中心とした一部の教員とはコミュニケーションをとっていたがそれ以外はとっていなかった。教科書通りにはいかないことも出てくるので、教科によっては教科書とは違う内容を伝えていたと思う。(千葉委員)

(4)学修成果

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
就職率の向上が図られているか	4
資格(免許)取得率の向上が図られているか	4
退学率の低減が図られているか	4
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	3

① 課題

・卒業後の早期離職が昨年度は目立った。在学中に就職研修に行く生徒、行かないで就職をする生徒といるが、どちらの生徒も早期離職をしている状況がある為、在学中に社会人教育も行うよう工夫をしていく。

② 今後の改善方策

・教務・就職・実習の主担当で月1回のMTGを実施しており、各校務単独ではなく連携して教育が行えるようにしている。後期に入り、学校として社会人教育を実施予定。

③ 特記事項

・特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

・離職理由は様々であるため一概には言えないが、人間関係や医療機関の対応や環境などで離職をしているケースが多いように感じる。(関根副校長)

・就職先を決めたのは、卒業生が何人もいた点と、見学時からとても雰囲気良かった。先生が勧めてくれたのも大きく、「先生が勧める就職先なら」と安心できた。(鈴木委員)

・教員との信頼関係ができていないと、勧めても就職しようと思えないと思うため、普段からのコミュニケーションや信頼関係を築くことの大切さを感じる。(関根副校長)

・高校でも進学先での定着率は課題である。卒業後の定着率を図っていきたいが十分にできていない。(島田委員)

(5) 学生支援

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4
学生相談に関する体制は整備されているか	4
学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	4
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4
課外活動に対する支援体制は整備されているか	3
学生の生活環境への支援は行われているか	3
保護者と適切に連携しているか	4
卒業生への支援体制はあるか	3
中途退学者への支援体制はあるか	3
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4
高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	3

① 課題

・2022年度は就職後の早期離職が多く発生した。卒業後の支援をより体系的に実施する必要がある。

② 今後の改善方策

・卒業生に多く来校してもらえよう、就職行事に卒業生を招いたり、オープンキャンパスのスタッフとして来校してもらい、直接就職後の悩みを聞けるような体制をとっていく。

③ 特記事項

・特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

・友人が退職したが、原因は人間関係だったため学校側でできたことはないと思う。特に友人は個人活動で就職したため、在学中も先生に相談する等、深く関わってもらっていなかった。（鈴木委員）

・先生から勧められたのが現在の就職先に決める決め手になったため、学校の求人では先生にサポートしてもらえるのが良いと感じる。（鈴木委員）

・高校の場合は転校が基本のため、次の転校先が決まっていることが多い。転校先を決める前に相談があれば転校先の高校情報を一緒に収集するなどし、サポートしている。（島田委員）

・病院では、退職する方に対して特にサポートなどはしていない。医療業界は特に人間関係での退職が一番多い気がするので、難しい。（千葉委員）

(6)教育環境

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	3
学内外の実習施設,インターンシップ,海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4
防災・安全管理に対する体制は整備されているか	4

① 課題

・実践授業を実施する際に実技教室を使用しているが、スペースの確保が今よりも充実すればより効率的・効果的な授業展開を実施できる。

② 今後の改善方策

- ・新校舎完成に伴う実習室の活用は検討予定
- ・多人数クラスのプロジェクターを投影するスクリーンの対応を行う予定

③ 特記事項

・特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・一番前の左右の席はスクリーンがほとんど見えないため、席替えの際にもその席にはなりたくないと感じていた。（鈴木委員）
- ・高校はホワイトボードに投影するように変更した。反射は気になるが、見えないということがなくなった。（島田委員）
- ・SankoGate(生徒用掲示板)でPPT資料を事前に発信し、投影した画面が見つらい場合には授業時に手元資料を見るように指示を出していた先生はいた。（島田委員）
- ・先生によってはホワイトボードに映して授業をされていたが、動画についてはホワイトボードへの投影より、スクリーンに映した方が見やすかった。視力が悪い方は見えないかもしれない。（鈴木委員）
- ・教室環境として、スクリーンに工夫をするのかホワイトボードへの投影を推奨するのかを検討したい。（関根副校長）

(7)学生の受入れ募集

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学生募集活動は、適正に行われているか	4
学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4
入学選考は、適性に行われているか	4
学納金は妥当なものとなっているか	4

① 課題

・安定した募集活動を行えているが、18歳人口の減少に伴いより一層の注力が必要となる。

② 今後の改善方策

・現状の適切な対応を保ちつつ、本人・保護者が入学後にギャップを感じないように工夫する。
・本校へ通学する中で教育の成果を実感していただけるよう、学校生活でのフォローも行っていく。

③ 特記事項

・特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

・入学前と後にギャップを感じたことはなかった。先生と生徒の距離が良い意味で近く、アットホームな雰囲気があったので安心した。（鈴木委員）

・医療事務系の本校に入学してきてくれる生徒は、「資格が多く取れるか」「就職ができるか」に重きを置いて進路を検討している方が多い。そのため、現在の生徒と先生の良い距離感でのアットホームな雰囲気を継続しつつ、資格や就職にこだわりを持ってサポートできるように、今後も尽力していきたい。（関根副校長）

(8)財務

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
財務について会計監査が適正に行われているか	4
財務情報公開の体制整備はできているか	4

① 課題

【中長期計画】

なし

【予算・収支計画】

なし

【会計監査】

なし

【財務情報の公開】

なし

② 今後の改善方法

【中期計画】

今期は第2次中期計画(2018年度～2022年度)の達成状況等の公開と同時に、第3次中期計画(2023年度～2027年度)を公開する予定である。

【財務情報の公開】

なし

③ 特記事項

なし

④ 学校関係者評価委員会コメント

特になし

(9)法令等の遵守

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
関係法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	3
自己評価結果を公開しているか	4

① 課題

・各課題に対し、対応できているものもあるが、対応が十分にできていない点もある。すぐに改善できるものには着手できているが、中長期的な期間を有するものについては計画を立てて対応していくことが課題。

② 今後の改善方策

- ・すぐに対応可能なものは継続的に随時改善を行っていく。
- ・中長期的な期間が必要な課題については、計画を立てて対応していく。

③ 特記事項

・特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・高校は、本校所在の宮城県から出る指示に従って行っているため、地方自治体の発信内容についても把握しつつ、対応している。（島田委員）
- ・病院は、基本の診療報酬が国で定められたもののため、原則すべてが法令に定められている。そのため、厳しく遵守している。（千葉委員）
- ・勤務先のクリニックでは先輩方はやっているかもしれないが、自身はまだそういった内容の業務に関わっていない。また、自身の業務の中で特に意識して実施しているわけではない。院内では係の割り当てはある。（鈴木委員）

(10)社会貢献・地域貢献

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	3
生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか	3
地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	3

① 課題

・コロナ禍の影響もあり計画通り取り組めてはいない。産学連携を強化するプロジェクトを昨年より実施しているものの、分野特性もあり参加ができていないのが現状。

② 今後の改善方策

・実習も少しずつ再開しているため、現場とともに取り組めることをヒアリングしながら進めていきたい。

③ 特記事項

・特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

・勤務先のクリニックにはボランティアやアルバイトの方はおらず、全員が社員である。（鈴木委員）

・在学中は医療機関でのアルバイトを考えてはいなかった。（鈴木委員）

・病院にもアルバイトの方はほとんどいない印象。（千葉委員）

・アルバイトよりもボランティアの方が医療機関のニーズがあるように感じるため、今後医療機関へボランティアの募集があるかをヒアリングしていきたい。（関根副校長）

(11)国際交流

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
留学生の受入れ・派遣について戦略を持って国際交流を行っているか	3
受入れ・派遣、在席管理等において適切な手続き等がとられているか	3
学習成果が国内外で評価される取組を行っているか	3
学内で適切な体制が整備されているか	3

① 課題

- ・留学生の受け入れ実績がなく、入学時の対応が十分にできる環境にはなっていない。
- ・留学生の受け入れ自体は問題なくできるが、医療事務の仕事では就労ビザが取得できない旨を説明した上で入学を検討していただく必要があるのが現状である。

② 今後の改善方策

- ・卒業後のビザなどの事も理解いただいたうえで入学を希望して頂ける留学生においては、滞りのない学校生活を送ってもらうための基本的な体制を整えていく。

③ 特記事項

- ・特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・現在の課題として、医療事務の資格を取っても日本での就労ビザが下りない。また、保険制度は日本独自の制度のため、医療事務を勉強して自国で働くこともできないため、就職に結びつけるのが難しく、留学生の受入れができていない。（関根副校長）
- ・中国人の医療通訳は病院でのニーズ・募集がある。医療事務としての就労ビザは取得できなくても、通訳としてなら就労ビザが取れる可能性があるため、その方面で確認してみたらどうか。（千葉委員）
- ・勤務先のクリニックには、アジア系の外国人の方が来院される機会が多い。全く日本語が通じない方もいるので困った。（鈴木委員）
- ・通訳で就労ビザを取得するという発想が新しい。就労ビザが取得できれば医療事務を学んでもらう価値も出てくるため、今後対応を検討したい。（関根副校長）

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

- ・病院側(医事課長クラスだと)も学校と繋がりたいという方は多いため、積極的に接点を作れるように医療機関模擬面接の依頼などのアプローチを掛けるとよい。(千葉委員)
- ・IT関連に強い人材がいると非常に助かる。(千葉委員)
- ・仕事の魅力を伝えられるように、教員も勉強が必要だと感じた。(島田委員)

コロナ禍で取り組みを中断していたボランティアや、任意としていた医療機関実習などの医療機関との連携を改めて強化していくことを目標とし、積極的に取り組んでいきたい。

また、コロナ禍の中で高校生活を送っていた生徒たちのコミュニケーションスキル向上やメンタルケアも重要な課題であると感じる。在学中に生徒の成長を促す要素として、授業や資格取得はもちろん、行事などもコロナ前に戻し、卒業時には生徒が「この学校で成長できた」と自信をもって社会人になれるように、そして業界からも必要とされる人材育成に繋げていきたい。

以上